

第3回 多摩市立図書館本館再整備基本計画検討委員会

日 時： 平成30年3月24日（土）午後1時から4時45分まで

場 所： パルテノン多摩 市民ギャラリー

出席者： （基本計画検討委員）常世田委員長、松本副委員長、前田委員、
青木委員、辻山委員、大石委員、佐藤委員、
古谷委員、栗崎委員

欠席： 寺内委員、井上委員

（事務局）清水教育長、須田教育部長、中島図書館本館整備担当課長、
笹原企画運営担当主査、澤井特定施設担当課長、
米山サービス係長、福島主事、
コンサルタント3名

（講師）前田委員、立花文化・市民協働課長

○ 開会

委員長： 第3回多摩市立図書館本館再整備基本計画検討委員会を開催する。
本日は委員2名から欠席の連絡が入っているが、9名の参加であり、検討委員会として成立する。

（配布資料確認）

○ 報告等

1. ヒアリングの報告

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 市民グループと行政関係部門のヒアリングを行った。

2月26日に「多摩市に中央図書館をつくる会」「多摩市の社会教育を考える会」のヒアリング、詳細は配付資料1のとおり。（議事関連項目説明）

また、3月19日に「多摩市文庫連絡協議会」「地域図書館の存続を考える4団体」のヒアリング、3月20日に障がい者の方の利用の観点から多摩市地域自立支援協議会の「権利擁護専門部会」の皆さんに意見をいただくお願いをしている。こちらは次回報告をできればと考えている。

行政関係部門のヒアリングは、事業連携の方向性等の確認を行い基本計画に反映することを目的としている。これまで市の文化財担当、創業支援担当、図書館協議会に実施、詳細は配付資料5のとおり。

委員長： 事前配付されている資料もあるので、この内容を議論に反映したいと考える。事務局は今後もヒアリング等続け、報告をしてほしい。

○ 議事

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 今回から「市民参加型学習会形式」と名付けた方法で検討委員会を進める。

まず、基本計画にかかわるテーマで講演や報告を行い、その内容を元に検討を進める。傍聴者からも質疑・意見をいただき知見の共有・参加となるようにする。資料は事前に公開し、それに対する意見をいただいている。検討委員会の所掌範囲内ものは紹介し、検討に加えるよう考えている。

これらの取り組みは最終段階のパブリックコメントだけでなく、検討段階からの市民参加と意見の反映を目的としている。

（本日の議事進行説明）

1. 講演「武蔵野プレイスからの学び」

- 委員長： 前田委員から事例発表をお願いする。
武蔵野プレイスは平成 23 年（2011 年）に開館した図書館を中心とした複合施設で、全国的にも有名。前田委員は立ち上げから運営に携わった元館長で、私も立ち上げ当初にお会いしている。
- 講師： ○資料 6 「武蔵野プレイス～新しいタイプの公共施設を目指して～」
- ・ 2011 年 7 月開館
 - ・ 地上 4 階地下 3 階。延床面積 9,800 m²
 - ・ 開館時間 9：30 ～22：00
 - ・ 年間来館者数 195 万人(2016 年)
当初計画段階では年間 80 万人を想定していた。
 - ・ 武蔵境駅の駅前に立地。隣接する公園も一緒に管理している。
 - ・ 武蔵野プレイスの開館後、駅が連続立体交差化され南北の街が繋がった。
 - ・ 武蔵野プレイスは複合機能施設。複合機能施設とは様々な施設機能の集合体として一つの建物を形成している建物
 - ・ 複数の機能が集まるメリットを生かした、新しいタイプの公共施設
 - ・ 色々な機能が相互に融合して幅広い市民による積極的な交流のできる場を作りたいと目指した施設
 - ・ 武蔵野プレイスでは付加価値のついた総合的な情報とサービスを提供する。
 - ・ 管理運営は、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団。前身は平成 22 年(2010 年)まで「武蔵野スポーツ振興事業団」
 - ・ 施設を設置する基本的な認識として、
 - ①現代社会は価値観の多様化、急速な情報化が進んでいる。その中で、自己の責任で主体的に判断し行動する為に、主体的学習機会の提供・地域の課題解決の為に判断材料の提供・その活動を支援する仕組みの構築が求められている。
 - ②デジタル化の進んだ中で、個人はコミュニティから遊離した状況にいる。この状況のなかで、人々が集い交流できる場としての公共施設が持つ役割は以前にも増して重要である。
 - ・ 年齢も目的も異なる市民が、来館目的以外の活動や情報にふれることで、様々な気づきや出会いや交流が生まれる。その場を提供することで、市民が新しい活動や文化を生み出せると期待をしている。
 - ・ 各機能を有機的に連携させる為に、1つのフロアで異なった機能が共存している。図書館部分は地下 2 階～2 階にばらして、他の機能と連携を図っている。
 - ・ 図書館は施設の基幹機能として他の機能と連携を図り、さまざまなライフステージに対応した滞在型図書館をめざしている。
 - ・ 貸出数は中央館よりも分館の武蔵野プレイスの方が多い。
 - ・ 「目的利用」から「状況利用」へ
「目的利用」⇒あらかじめ明確な目的をもって施設を訪れること
「状況利用」⇒状況に応じて施設を訪れたり、ふらっと立ち寄ること
 - ・ 新たなターゲット：
従来公共施設にあまり縁のなかった人たち（ビジネスワーカー）
重要な担税者であり、しっかりしたサービスを提供したい。
 - ・ カフェ：事業者募集の要件として
◇良質なものを提供して、集客を計る。

- ◇施設の使命を理解して、一翼を担うこと。（企画事業を行う）
- ・カフェでのアルコールの提供や図書の持ち込みは賛否あったが、好評に受け入れられており、問題もない。
汚破損については、貸出の通常ルールを適用
- ・ワーキングデスク（有料）
「公共施設でやりたいことがすべて完結した」という利用者もいた。
仕事のスペース、息抜きのカフェ、図書館で調べごと
- ・2階 テーマライブラリー＋こどもライブラリー（7.3万冊）
にぎやかな図書館：静寂な場所を他の階で確保
吹き抜けを生かして、音や匂いも共有する。
他のスペースからの音がある→肩の力を抜いて利用できる親子連れ
生活関連系図書：表記をかえて、利用者に分かりやすく伝わるよう工夫
- ・地階 メインライブラリー
閲覧室の吹き抜けは採光だけ、音は遮断している。
- ・ICタグ導入：貸出・返却・予約本の引き取りを自動化
カウンターでは人間しかできないサービスを行う。
- ・IC棚の導入：返却資料の所在がわかり、利用につながる。
- ・雑誌：600タイトル。プレイスは分館なので多数の蔵書はできない。
雑誌の「そこそこ」の専門性、即時性、娯楽性に着目し、分館の売りにする。
- ・敷居をさらに低く
- ・青少年へのアプローチ 地下2階の利用は多い時で一日のべ600人の利用
アート&ティーンズライブラリーとスタジオ・ラウンジを同じ階に。
少しでも本に触れてほしいという取り組み。
- ・目指す施設「利用者の役に立つ施設」「末永く愛される施設」
 - ◇シームレスな公共空間
 - ◇日常生活に密着
 - ◇課題解決（地域、個人）のための支援

委員長： 従来型の図書館ではなく様々な機能が入っている施設を紹介していただいた。後ほど今の講演に基づいて議論する。

2. 報告「パルテノン多摩再生の方向性と基本計画」

委員長： 担当の多摩市くらしと文化部 文化・市民協働課長 立花氏から、報告をお願いします。

講師： パルテノン多摩は平成28年（2016年）3月に方針を決定し、大規模改修事業がスタートした。併行して図書館本館再構築基本構想も進んでいた。
中央公園をとりまく施設としてより効果を発揮するように、連携して計画を進めるべきとされている。
本日は、パルテノンの改修基本計画がどのように進んでいるか情報提供を行うので、図書館と連携できることを検討していただきたい。

○資料7「パルテノン多摩 再生の方向性と基本計画」

- ・昭和62年(1987年)10月開館の劇場と博物館の複合文化施設。昭和56年(1981年)第二次総合計画に位置づけられた本市の「文化の殿堂」として建設された。
平成28年(2016年)3月に改修方針を決定し、7月に基本計画策定委員会が発足した。
- ・議会から出された3つの条件
 - ◇事業費を抑える

◇地域全体の活性化に寄与するような内容の改修にする

◇多くの市民と情報を共有しながら市民参加をしてすすめる

- ・平成 29 年（2017 年）2 月 基本計画策定委員会報告書が提出される
更に市民意見を丁寧に聴き、ホールを運営する専門家の意見も反映すべきとの意見から基本計画策定の進め方を見直した。
- ・平成 29 年（2017 年）6～7 月 市民ワークショップを開催し、のべ 216 人の市民参加。
その他、都市活性化の専門家・ホール実務専門家による検証作業を行う。
今回のパルテノン多摩の大規模改修においては、まちづくりや教育といった視点にも留意し改修をしていく。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」
はじめて法律によって公共ホールに求められる役割が明示される。
- ・ホールに求められる役割
 - ①社会包摂：誰もが社会参加し、心豊かな生活を実現できるための場
 - ②広場機能：地域のコミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える場
- ・博物館の役割
多摩市にしか残せない郷土の歴史や先人の想いを後世に引継ぎ、地域のアイデンティティを向上、地域の活性化など市民による新しいまちづくりにつなげていくこと
- ・博物館のこれから
 - ◇嗜好性のある来館者だけでなく、多様な人々を引き寄せる魅力の創造
 - ◇学芸員と市民が日常的に活動できる拠点
- ・パルテノン多摩の基本理念（平成 28 年度 基本計画策定委員会報告書より）
「文化芸術を通して、みんなが喜び、つながり、まちの魅力を創造する」
方針 1：豊かな文化芸術を、鑑賞し創造する楽しさや喜びを実感する場所づくり
方針 2：文化芸術を通じた新しい広場・まちの広場づくり
方針 3：多様な人々が集い交流し賑わうことを通し、未来に向けた地域づくり
- ・クリエイティブキャンパス構想
創造的な大学のキャンパスのような場所が、街の中心にできることで、多摩センター地区、および市域全体に創造的な回遊性が生まれる。
- ・パルテノン多摩が目指す将来像
 - ◇従来の良質な文化芸術の提供は継続
 - ◇あらゆる人、街に開かれた交流の場
 - ◇多摩市の内外から若者も集う文化活動の場
 - ◇市民の協働から新たなイノベーション（変革）が起こる場
 - ◇市民の日常の文化活動の積み上げがホール（憧れの舞台）につながる場

○資料 7 続き「パルテノン多摩の改修の考え方」

[1 階]

- ・人気のある練習室を 1 つ増やす。（第 5 収蔵庫を改修）
- ・市民活動や市民スタッフの拠点となる市民協働の場を事務室内に設置
- ・工作室：たとえば 3D プリンタなどを置くなど、市民が舞台道具や衣装などを制作したり、博物館の調査研究作業などを行なう工作室を設置

[2 階]

- ・大掛かりな展示以外に使用頻度の低い特別展示室を、仮称オープンスタジオとして日常的に自由に使うことを検討している。
- ・エントランスロビーの壁を取り払い、日常的に利用できるフリースペースとして解放

[ホール]

- ・客席や舞台など車いすの方が自力で利用できるように、バリアフリー対応を

行なう。

[4階]

- ・子どもや親子を主役とした、楽しく遊んで学べるスペース
- ・壁を取り払って大きなスペースをつくり、子どもが来たくなるしかけを考えている。現在市の子育ての専門部門に検討してもらっている。
- ・公園側の玄関口になるので図書館側とつながる場所のひとつ

[5階]

- ・レストランはそのまま活用
- ・シティサロンは多目的に利用できるように整える。

[エレベーター]

- ・閉館の時間でも使えるように工夫していきたい。

[その他]

- ・周辺企業と連携して、ホール・スタジオ・多目的エリアを使用したイベントを開催していきたい。
- ・レストランがあるのでカフェは簡易なものを考えている。武蔵野プレイスのように業者が入って運営することは想定していない。

委員長： 事務局から、傍聴の皆さんからの質問・ご意見の紹介をお願いします。

事務局：

- 武蔵野プレイスについての質問
 - ・武蔵野プレイスの運営について聞きたい。
 - ・武蔵野市立図書館の他館の運営について、直営か。
 - ・武蔵野市立図書館は他の図書館でも IC 棚があるか。
 - ・武蔵野プレイスと駅の距離は。移動困難な方も容易に利用できるか。
 - ・利用者数のうち、市内利用者はどの程度の割合か。
 - ・イベント時のライブビューイングはあるか。

講師：

- 武蔵野プレイスの運営について
 - ・公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団の運営
 - ・現時点で図書館担当は市から 2 名派遣されているが、いずれは財団職員が司書を取り、全員財団の職員になる予定
 - 武蔵野市立図書館の運営について
 - ・中央図書館は武蔵野市の直営
 - ・吉祥寺図書館は 4 月のリニューアル後に財団の運営となる。市から 4 人、財団から 3 人の運営で始まり、いずれは全員財団の職員で運営する予定
 - IC 棚について
 - ・市立図書館の資料にはすべて IC チップが入っている。
 - ・武蔵野プレイスは自動貸出・返却・予約棚がある。
 - ・吉祥寺図書館はリニューアル後、武蔵野プレイスと同様に整備される。
 - 武蔵野プレイスの駅からの距離
 - ・雨が降っていても、走れば傘をささずに行ける距離
 - 移動困難な方も容易に利用できるか
 - ・駅前から段差無く入館できる。
 - 利用者数について
 - ・昨年の利用者は延べ 195 万人、6 年で 1000 万人を達成。
 - ・武蔵境駅は三鷹市・西東京市・狛江市の在住者も利用する駅で、正確な統計はないが 4 : 6 の割合で市外利用者が多いと考えている。
 - ライブビューイング
 - ・まだ対応できていない。
- 事務局： ○パルテノン多摩についての質問
- ・博物館は展示だけでなく、調査・研究機能もある。全体に縮小している

のではないか。活動も縮小していくのではないか。

図書館に展示室をつくり、特別展示を補うような考えはあるか。

- ・大ホールについて「公演ホール」と「市民のためのホール」という位置づけがあるがその違いは。

◇施設・機能(ハード)の違いはなにか。

◇経費収支に与える影響の違いは。「興行収入」と「それ以外の収入」はどうか。

◇メンテナンス費用の違いは発生するか。

講師：

○博物館機能について

- ・現在の常設展示室はそのまの形では残さない予定だが、展示スペースは必要なので、市民ギャラリーも含めて検討中

- ・調査・研究機能部門について、現在は、学芸員は1階の事務室にいて、4階に研究室と図書コーナーがある。

4階は子育て支援機能とする予定なので、研究スペースを閉鎖的なところから見える位置に移動して興味をもって頂くようにするなど、検討している。

- ・練習室を増やすため収蔵庫が減るが、現在は倉庫不足から収蔵庫を代用していることから、整理すれば収蔵庫としてのスペースは足りると考えている。

○大ホールについて

◇施設・機能(ハード)の違い

- ・現在の舞台設備はプロが使うことを中心に考えられている。市民の利用を増やしていきたい。

- ・例えばボタンは手動なので、プロが操作する必要があり、作業が大変で人出・手間(ランニングコスト)がかかる。電動化してランニングコストを押しさえ、市民が使いやすくしていきたい。

◇メンテナンス費用の違い

- ・新しい設備はメンテナンスがしやすい。今の設備は古いので交換部品がない等の問題も発生している。

- ・新しい設備でメンテナンス費用が安くなるということはないようだが、設計段階で検討したい。

◇事業収支について

- ・こういった公共ホールで収支が黒字になる事例はないが、収入確保の努力はしていく必要がある。

- ・事業支出として年間1.5億円、全体で6億円弱、指定管理料(人件費・設備維持管理費・事業費)は3.8億円支出している。

- ・今後、興行収入が伸びるということにはならないだろう。パルテノンの大ホールは現在1,414席だが、興行施設としては府中市や八王子市、立川市に2千席超のホールがあり、客席数では競争しない。

- ・収益を上げる施設から、経費を抑えながら市民が使いやすい施設にするよう考えていく。

事務局：

その他の意見や質問

- 図書館やパルテノンを路線バス・シャトルバスのルートに入れてほしい。

- コミュニティセンターの図書館利用者に意見を聞かないのか。

- 館の運営について、コミュニティセンターのように市民が運営をすることを考えてはどうか。

- アルコールを飲むことは賛成だが、反対意見の説得はできるか。

- 22時までの開館に賛成。

3. まちづくりと知の地域創造
4. 図書館ネットワークの将来像
5. 図書館サービスの向上と再編

- 委員長： 本日のテーマに関連する部分について、事務局から資料の説明をお願いする。
- 事務局： 議題を3,4,5と分けているが、明確に分けられない内容だと思うので、続けて議論していただきたい
- 資料2 議題3,4,5の内容をまとめてワークシートとした。
- 資料3 サービス計画検討資料「図書館でつながる人たち」
- ・基本構想で書かれていること
 - ・年齢別貸出利用者の比較
 - ・障害者サービス
 - ・多文化サービス
 - ・高校生,中学生,乳幼児保護者へのアンケート
- 資料4 サービス計画検討資料「利用にこたえるサービス」
- ・基本構想で書かれていること
 - ・各市大人向けの催し事例
 - ・レファレンス件数の比較
 - ・図書館協議会の答申より
 - ・その他 参考図書、利用者懇談会での意見
- 次回以降の議題に関連する内容もあるので、参考にしていただきたい。
講演、資料に基づいて議論をしていただきたい。
- 委員長： 近年、MLA(博物館・図書館・文書館)連携と言われるようになった。もともと欧米では同一のものだったが、特化した状態になった時代に、それぞれ別なものとして日本に考えが輸入され、機能分化された経緯がある。この度の計画では物理的にも近いし、議会からも連携をするよう言われている。
- 委員： パルテノンの資料に(博物館の機能として)「レファレンス」とあるが、現在どのようなことをやっているのか、市民に対する窓口があるのか、それを確認して図書館との連携を考えたい。
- 講師： 現在はカウンターのようなものはないし、学芸員は様々な事業を抱えているので外に出ていることも多い。要望があった場合に対応している状況で、資料を収集して整理しても市民に提供する場が少なく、学芸員の力を活かしてきれていない。今後強化していきたい。
- 委員： 図書館サービスをきちんと考えて、図書館自身が何をやるべきか決まったところで、パルテノンと連携できることが理解できるのではないかな。
- 武蔵野プレイスと多摩市の今回の計画のビジョン(目指すもの)は違う。
公園を挟んだ近接性を活かしつつ、スタンダードなものを念頭にレファレンス、資料と情報の共有化、職員の教育・連携体制などを考えることが必要で、それぞれの方向性が出ない段階でこの委員会では先走った議論をするのは難しいのでは。
- 報告して頂いたように、図書館とパルテノン多摩について、互いの基本計画の動向を見ながら検討を進めて、無駄がないようにしたい。いずれにしても、図書館の機能はしっかり維持して整備するように、検討委員会としてはまとめていきたい。
- 委員： 武蔵野プレイスは武蔵野市の中では地域館という位置づけ。多摩市に中央図書館をつくる会でも2015年に視察させていただいた。こういうあり方も良いが、7000㎡の中央図書館が整備されている上で、さらに駅前の好立地を手に入れ、複合施設としてできた事例だろう。

多摩市の目指すものは中央図書館をつくること。新しく作るもので、様々な機能を取り込むチャンスだが、財源も面積も限られている中で基本的な機能を考えていきたい。

パルテノンとの連携については、視聴覚・博物館部門はあるので機能が重複しないよう役割分担したい。図書館の地域資料の構築を考えて、収集の窓口を市として一本化してはどうか。紙の資料・データ・物と形態が違い、博物館が得意なものもあるが、整理できたらよい。

委員長： 資料や施設については次回以降順番に議論していきたい。資料・施設とサービスは一体ではあるが、サービスを柱として検討したい。

連携についても、施設として・資料としての連携がある。例えば博物館はオリジナルを持ち、図書館ではレプリカを展示するなどの手法もある。イベントの連携もある。切り口を明確にして検討するとよい。大石委員が言われたように本来の図書館のスタンス・機能があり、それを崩してまでの連携というのはおかしなものになる。

副委員長： パルテノンの計画に「ライブラリーカフェ」とある。ライブラリー＝図書館なので、機能の重複になるかもしれないし、やり方によってはうまく連携することができるのかと思う。具体的にどのように考えているか聞きたい。

講師： 「ライブラリーカフェ」は仮称で、現在想定しているのは図書館や図書室ではなく、居心地の良いスペースに子育て世代が関心を持つような雑誌・書籍などを置くといったイメージ。連携といったことであれば、図書館に選書を協力してもらおうことなどを考えたい。

委員長： 「ライブラリーカフェ」は博物館関係のものに限ったものではないということか。

講師： 4階は子育て支援の機能と考えている。遊んでいるうちに何かに出会うといった仕掛けがあれば。読み聞かせをしてもいいし、専門家に簡単な子育ての相談ができるようなことも考えている。

委員長： パルテノンはホールと博物館と子育て支援・交流スペースといった3つの柱ということか。

講師： 2階は滞留できるスペースとして、現在イベントが無いときに閑散としているところを活用するよう考えたい。交流ができるスペースになれば。

委員長： パルテノンの中でのこの3つの機能の連携ということに関してはどう考えているか。

講師： 現在は全ての機能を文化振興財団が運営している。学芸員も財団に所属していて、ホールも博物館も同じ事業課にいたるため、連携して業務をしている。

委員長： 組織として一体なので連携しているのはわかるが、サービスの性格が違う「ホールと博物館と子育て支援・交流スペース」がソフト面としてはどのような連携があるか。具体的な事業としてあるか。図書館がどう関係していくかに関わる。

講師： ホールでの公演と博物館機能が連携する等ということは十分にできているとは言えない。例えば現在、博物館ではニュータウン史の展示を行っているが、昨年ニュータウン史を題材に演劇を行なったが、その際の連携などが挙げられる。財団内部での事業連携も充実していく必要がある。

そこに図書館が加わって、演劇公演があればそれに関連した企画展示や資料提供などができたら良いと思う。

委員： ライブラリーカフェについて気になる。

連携ということでは、地域館は複合施設にあるので、他の施設のイベントと関係する企画展示などを行っているし、児童館での読み聞かせを行ったり、コミュニティセンターでは講座に参加して出前で本の紹介等を行っている。

本館再整備では同じように連携ができればよいが、パルテノンは近いが微妙

に離れているので、しっかりとやらないと続けていけない。

以前、体育館に図書館の資料を置いていたことがある。入れ替えは図書館で行っていたが、手を入れないと読まれなくなる。図書館で企画展示を行うと資料の入れ替えのきっかけになるし、図書館への誘導をしやすいのではないか。

図書館とパルテノンで互いに持っている資料が解らないところがある。文化財系の所蔵資料・パルテノンの所蔵資料を図書館でも研究し、持ち合いも検討する必要がある。レファレンスで紹介しても職員が常駐していない、資料もない、では困るので。

委員： 連携には二つあり、一つは物理的連携。パルテノンと図書館は建物は離れているが、それをメリットと捉えれば、回遊性が生まれ相乗効果が得られると考えられる。もう一つの連携は資源で、資料と人的資源。互いに機能を補完して相乗効果を得るといえるように考えてはどうか。

委員： 児童サービスについて。パルテノン4階の子育て支援機能で読み聞かせなど行われるとあったが、回遊といっても、小さい子どもを連れてあまり動き回れない。パルテノンにどのような資料を置くか図書館も考えなければいけないし、子ども図書館をパルテノンに置くようなことはして欲しくない。連携ということでは不安がある。図書館の基本的な児童サービスをきちんと行いたい。

委員長： パルテノンも図書館も、それぞれ固有の目的を明確にすることが前提で、その上で連携を考えるべき。資料については団体貸出をすることもできる。

また、中央公園周辺には多くの企業・団体があるので、そちらとの連携も宿題として考えて行きたい。

次に、図書館ネットワークの将来像について、中央図書館と地域館・拠点館、あるいは図書館類似施設などとのネットワークについて議論していただきたい。

委員： 図書館ネットワークについては、基本構想にビジョンがきちんと出ている。武蔵野市は平坦で多摩市は丘陵地、地勢的違いがあって、地域館を支える中央図書館はどうあるべきか考えることが重要。

多摩市が持続可能な都市として魅力を高めていけるかという視点で考えたい。中央図書館がないことで十分にできていないサービスを補完するために、職員を育成してきちんと配置することで、ネットワークが守られていくということになる。コアになるところをしっかりと考えていくことが出発点になるのかなと思う。

その上で中央図書館に必要なのは、基本構想にあるような資料世界と他市にはない多摩市独自の地域資料がしっかりとあること。連携施設や地域館を支える機能が重要。

地域館は地域の実情にあった運営をしていく必要がある。

拠点館は規模も大きく、他市にはないユニークさがある。例えばビジネス支援の例では産業振興機能を同じ建物で実施している静岡市立御幸町図書館などの事例がある。行政との連携や創業支援まで行う場合、こうした事例も参考に、(同じ建物にビジネススクエアのある)永山図書館で行ってもよい。拠点館としての価値を考えるうえで、すべて中央図書館でやるのが合理的か、ということもある。まず、中央図書館機能を整理した上で、拠点館に分担させることも考えてはどうか。

委員長： 他の公共施設は建物に入らないと利用できないが、図書館はネットワークになっていて、小さな分館で資料のリクエスト、レファレンスなどのサービスを受けられる。他の公共施設にない特性があり、図書館が力を発揮する源になっているが、それだけにネットワークは重要。

多摩市は平坦な地形ではないので、利用者それぞれがアクセスしやすい図書館ですべてのサービスが受けられるようにしたい。

- 副委員長： ネットワークは非常に重要で、中央図書館で全てを担当しなくてもよい、システム全体でサービスを受けられることが大切だと思う。
- 多摩市では地域図書館と本館・拠点館のネットワークはできていて、学校図書館とは資料のやりとりができています。今後は、幼稚園・保育園・高齢者施設にも団体貸出などの資料提供を行っていく必要があると考える。
- 武蔵野市ではどのようにされているかお聞きしたい。
- 委員： 学校との連携は課題が多い。取り組みとしては読書指導を行っている。図書館から小学校(全 12 校)に司書が出向き、3 年生を対象に司書が本の紹介を行い、1 クラス 40 冊程度を置いて来て図書館の宣伝も行っている。また、移動教室の前の調べ学習用資料の提供なども行っている。
- 委員長： 図書館以外の施設にも団体貸出を行うという活動は、各地でずいぶん前から行われている。企業や施設・学校に司書が出向いたりする活動もある。中央図書館の整備と同時にサービスを始めていくことを考えたい。
- 委員： 多摩市の現在の状況を説明する。30 年前から、図書館から全小学校に出向き 2 年生を対象に図書館と本の紹介を行っていた。現在は学校が希望の図書館を訪問するという形になっている。全校で行われている取り組み。
- 幼稚園・保育園へは、希望のあるところに読み聞かせを行っている。文庫の方が行っていただいているところもある。
- 団体貸出は学校・保育園・幼稚園の希望のあるところに行っている。学校はほとんどのところに行っているが、保育園・幼稚園はまだ利用が少ないので増やしていきたい。
- 調べ学習用の資料として、学校の要望に合わせて資料を届けている。
- 高齢者施設へのサービスは、ボランティアの方が読み聞かせを行っている。デイサービス施設でも、ボランティアの方から希望を聞いてもらい資料を届けていたことがある。
- 障害者サービスとしては、施設に宅配サービスを行っている。
- 病院へのサービスはできていない。今後の課題と考えている。
- 委員長： いつもお話ししているが、市民の利用実績から見て多摩市のサービスレベルは高く、狭い市域にたくさんの図書館があり、通える図書館が利用者の近くにある。図書館システムはうまくいっている。それ以外のアウトリーチサービスに力を入れ始めているという整理でよろしいか。
- 大学・高校・研究機関との連携はあるか。
- 委員： 多摩市に研究機関はない。イベントがあるときに手伝ってくれる高校生はいる。大学生との連携はビブリオバトルの開催などがある。
- 委員長： それは、図書館に来ている学生ということで、大学図書館などとの連携は。
- 委員： 図書館との連携はない。
- 副委員長： 大学は近年、地域貢献を求められていて、そういった事業を行うように大学内で補助金が出されたりしている。図書館からの働きかけることもできるのでは。鳥取大学医学図書館では、大学には専門書しかないが学生を呼び込みたいということで、米子市立図書館に学生と一緒に本を借りに行き、展示をしたという事例もある。大学にとってもメリットはあり、様々な連携が考えられる。
- 委員： 多摩市の図書館はアウトリーチではまだ弱いと思う。第三次子ども読書推進計画市民連絡会で確認した範囲では、児童館・学校図書館に来てほしいという要望がある。お話会も定期的には行っていない。
- 小学校・学童クラブでは主にボランティアが活動している。浦安市のようにはなかなかできないが、お話会や団体貸出のやり方に工夫がもっと必要、ボランティアとの関わりにも工夫がもっと必要。中央図書館の役割として検討する必要がある。
- 委員： これから高齢化社会になっていくので、高齢者施設へのサービスは強化して

いく必要がある。田原市図書館の回想法など事例がある。

アウトリーチとは言えないかもしれないが、学校図書館は学校司書が一人で支えているので、資料だけでなく心理的なサポートがあると良いのでは。先生に向けて、授業づくりや「いじめ」などについて考えるための参考資料を紹介(リスト)してもらえたらと思う。

委員長：

子どもと高齢者へのアウトリーチサービスを強化するよう、意見が出た。

大学図書館との連携は、専門書の取り寄せと専門家を引っ張る効果がある。

市の創業支援施設担当の方から話を聞いたが、第2の人生で創業、NPOの設立などを考える方も多い。コワーキングや専門機関から図書館が情報を引っ張って提供するなど逆の効果も期待できる。

高知県立・市立図書館は県立と市立を合築する新しい試みだが、関連施設との事前協議を開館の数年前から行っていた。パルテノンとも打合せを始めてはどうか。委員会として提案したい。

委員：

委員長が言われたのは、担当レベルで会議を始めてはどうか、ということだろう。検討委員会ではいろいろ提案するが、実際に動くのは職員。職員は日常業務をこなしながら研究・計画と大変だとは思いますが、検討委員会の傍聴などでもして自分のこととして議論に関わっていく姿勢も必要ではないか。

パルテノンでは市民も関わって計画を進めていくと聞いている。パルテノンから連携を期待されているし、図書館から会議に出向くなら力のある職員が行かないといけない。本館再整備として建物をつくるのも大変だが、ネットワークを動かすのはやはり職員。市には職員体制をしっかりとするよう、委員会として提案したい。

委員長：

本日は市長も来られている。準備・計画が大変な時期でもあるので、職員と予算の手当を委員会としてお願いしたい。

続いて、サービスの将来像について議論していただきたい。

副委員長：

図書館の基本的機能は現在のところ図書資料の提供だ。より抽象化して言えば情報・知識の蓄積収集・組織化・提供である。しかし、しばらくは図書の貸し出しやレファレンスが大きな柱になる。

武蔵野市の事例にあったように、ICチップ・自動貸出など新しい技術が出てきた。基本的サービスはきちんとやっていくが、サービスを構成する要素として取り入れてもよい。職員の仕事の効率化にも良いのではないか。

委員：

武蔵野プレイスは「目的利用」から「状況利用」へ、という視点は、これまで図書館を訪れることのなかった人にも訪れていただき、そこから活動につながっていく仕掛けであると思う。本館整備予定地も駅前の好立地でパルテノンの説明資料には「クリエイティブキャンパス」とある。目的なく来た人も知的好奇心が刺激されて活動につながる、敷居を低くした取り組みになるかと思う。

資料3の10代のアンケートでは、自習利用などの居場所を求めている。武蔵野プレイスの事例をみても、そうしたニーズを汲んだ施設運営をされていると感じる。また、働いている人には、夜間開館があれば仕事ができる等の希望があるだろう。本館は駅前の好立地に位置しており、さまざまな施設を回遊できるようにもなるので、要望に応えるようにできると良い。

委員

将来の図書館ということで、全国の図書館で新しい取り組みを行っている。電子図書が利用できるとか、ミュージックライブラリーなどがその事例。一方で、お金をかけて作ってしまっ、メディアとして連続性があるのか疑問がある。

多摩市民のための図書館であるということをよく考えた場合、欠かせない要素は市民活動支援やビジネス支援などかと思う。多摩市に中央図書館をつくる

会の勉強会で「どのように人生設計をすれば良いかわからないので、図書館にそうした支援機能を期待したい」という若い人の発言もあった。資料3の利用者層の構成比を見ても、若い人の利用が少ない。地域を支える若い人を支援することがまちづくりとしても大切だと思う。

鳥取県立図書館では全国的に著名なビジネス支援に加え、医療・介護支援、さいたま市立中央図書館でも市民活動支援のほか、医療・介護やビジネス支援など、大和市立図書館では健康づくりと標榜して図書館（健康テラス）で健康体操などを行っている。多摩市でも直面している課題を支援していくようにしたい。従来のビジネス支援に加え、最近の社会参加形態であるソーシャルビジネスや就労支援などが想定される。新しいことを追いすぎずベーシックなサービスを行いたい。

それを担う職員の確保育成も大切にしたいし、パルテノンへの支援も必要かと思う。

委員： 自分の図書館の利用は借りるだけでレファレンスは利用していない。興味のある分野のクイズに答える形で調べることを体験し、レファレンスがどういうものかを利用者に知ってもらふ必要がある。そうしていくうちに、わからないことが出てきたときにサービスを利用できるようになり、図書館が役に立つという実感が持てるようになる。レファレンスの積み重ねを通して職員はニーズを把握し、必要に応じて研究者などの講座につなげていってはどうか。

委員： 地域ごとの課題があり、市全体としての課題もある。それを図書館の人的資源と資料を使って解決する。図書館網を利用して、どこの地域館・拠点館でも利用できるようにしたい。それぞれの図書館で開館時間を変えることも必要になっていこう。中央図書館は、それをまとめあげるのが役割だろう。

委員長： ほぼ、意見を出していただいたと思う。
現在の状況に満ち足りている人、学校に行きたくないが図書館になんとかたどり着いた人、ビジネスにバリバリ利用したい人などニーズの幅・求める媒体の違い・資料の説明や手助けが欲しいなど、利用者は様々で多様性のカバーが必要。

従来の図書館は多様な利用者へのサービスが一部しかできていない。多摩市はだいぶできているが、さらに強化することが課題。図書館だけでは難しいので専門家や専門機関を引き込むように考えていかなければならない。ベーシックなサービスをしっかりやり、優秀な職員を確保しなければならない、ということだろう。

一方で新しい技術も研究していかなければならない。

先日、地方の図書館で二人の館長と会談したが二人ともまったく同じことを言っていた。「今後は簡単なレファレンスにAI(人工知能)を使う」「書架整理にロボットを導入したい」

ベーシックなサービスをきちんとやってきた図書館で、新しい技術を取り入れることに効果があると思う。多摩市の図書館は、コンピュータ導入も先進的に行ってきた。新しい技術に取り組むことに真摯な姿勢がある、伝統のある図書館なので、考えていきたい。

○ 事務連絡

事務局： 次回、第4回検討委員会は4月21日午後1時から、市役所西会議室で行う。次回は「資料再編」「地域資料」「資料収集計画」をテーマとして、資料の事前公開を4月11日に予定している。市民の皆さまの意見も受け付ける。